

難治性疾患克服研究の対象となっている123疾患について主任研究者； 中村 耕三疾患名； 前縦靭帯骨化症

1. 初代研究班発足から現在までの間の研究成果について(特定疾患の研究班が独自に解明・開発し、本研究事業として公表したもの。なお、原則他の研究事業等に依存していないもの。)

(1) 原因究明について(画期的又は著しく成果のあったもの)

不可・類縁疾患である後縦靭帯骨化症をターゲットに行われている

(2) 発生機序の解明について(画期的又は著しく成果のあったもの)

不可・類縁疾患である後縦靭帯骨化症をターゲットに行われている

(3) 治療法(予防法を含む)の開発について

ア 発症を予防し、効果があったもの

不可・類縁疾患である後縦靭帯骨化症をターゲットに行われている

イ 完治に至らしめることはできないが、進行を阻止し、効果があったもの

| | 時期 及び 班長名(当時) | 内容 | 備考 |
|---|------------------|------------|----|
| 1 | 昭和 61 年・寺 山和雄 | 手術による骨化巣切除 | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

他の研究事業の成果と分かち難い場合は、備考欄に「合」と記載し理由を付記。

ウ その他根本治療の開発についても

不可・類縁疾患である後縦靭帯骨化症をターゲットに行われている

2. 「1」以外で、国内、国外を問わず、研究成果の現在の主な状況について

(1) 原因究明について(画期的又は著しく成果のあったもの)

後縦靭帯骨化症の候補遺伝子である COL6A1 遺伝子が、日本人での前縦靭帯骨化の感受性候補遺伝子でもある可能性が示された。

(2) 発生機序の解明について(画期的又は著しく成果のあったもの)
なし

(3) 治療法(予防法を含む)の開発について
ア 発症を予防し、効果があったもの
なし

イ 完治に至らしめることはできないが、進行を阻止し、効果があったもの
手術による骨化の摘出。

ウ その他根本治療の開発についても
なし

3. 現時点において、次の事項について残された主要な課題及び今後の研究スケジュールについて

(1) 原因の解明について

不可・類縁疾患である後縦靭帯骨化症をターゲットに行われている

(2) 発生機序の解明について

不可・類縁疾患である後縦靭帯骨化症をターゲットに行われている

(3) 治療法(予防法を含む)の開発

不可・類縁疾患である後縦靭帯骨化症をターゲットに行われている

4. 重症化防止対策について

大多数の患者に対して外来通院によって症状のコントロールが可能な治療法(重症化防止のための治療法)の確立

| | 重症化防止のための治療法確立について解決すべき課題 | 5年以内に解決できる可能性 | 解決不可能な場合の理由 | 左記理由を解決していくスケジュール |
|---|---------------------------|---------------|-------------|-------------------|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | | | | |
|---|--|--|--|--|
| 4 | | | | |
| 5 | | | | |